

# 注 意 報

長崎県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予察 注意報第4号

## 普通期水稻 トビイロウンカ

1. 発生地域（対象地域） 県内全域

2. 発生程度 やや多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 8月後期の巡回調査（68筆）の結果、株当たり虫数は0.4頭（平年 0.2頭）であり、過去10年間で3番目に多かった（図1、3）。発生圃場率は48.5%（平年 36.4%）と平年よりやや高く（図2、4）、一部多発圃場も散見された。
- (2) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数は県全体平均で0.1頭（平年 0.02頭）であり、最高3.7頭と要防除水準に達している圃場がみられた。
- (3) 8月6半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は1.35頭（平年 1.13頭）であった。また、短翅型雌成虫率は75.0%（平年 52.0%）と高かった。

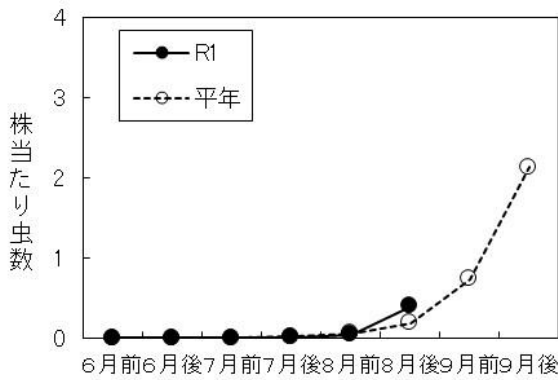


図1 トビイロウンカの株当たり虫数の推移

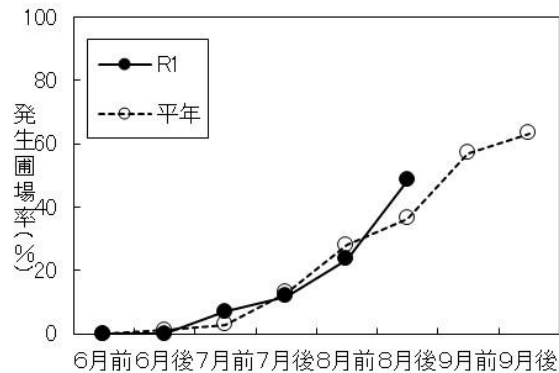


図2 トビイロウンカの発生圃場率の推移

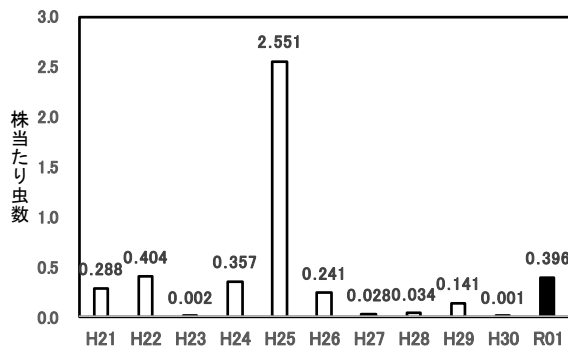


図3 8月下旬の株当たり虫数の年次推移

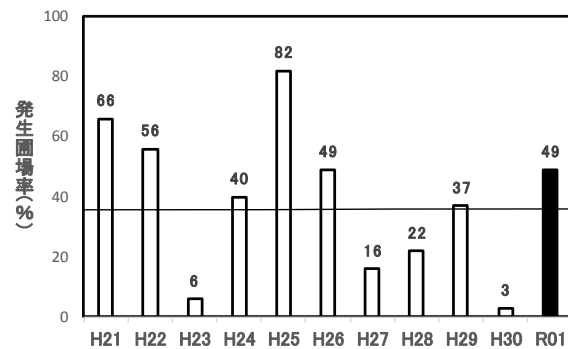


図4 8月下旬の発生圃場率の年次推移 (一は平年値を示す)

#### 4. 防除対策

- (1) 今後の発生予測は図5のとおりであるが、本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、圃場の見回りを徹底し、圃場全体の発生状況を把握して防除を行う。
- (2) 9月上旬の要防除水準は株当たり短翅型雌成虫数が1頭以上である。
- (3) 8月の天候不順により、予定されていたウンカ類の防除が実施できていない圃場では必ず防除を行う。
- (4) 防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- (5) 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧にを行う。

---

○水稲穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。「長崎県病害虫防除所ホームページ」

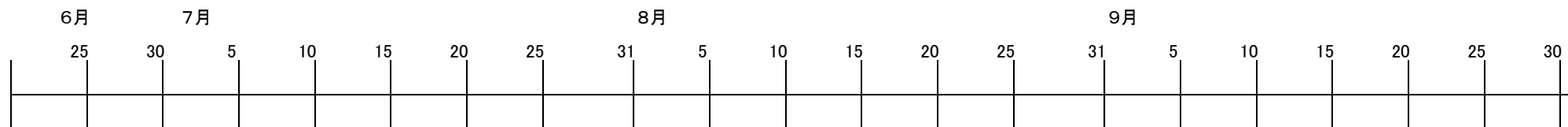
アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027



(図5) トビイロウンカの発生予測図(令和元年)



(飛来日)

6月30日	成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	
7月1日	成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	
7月10日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫
7月11日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫

※ 発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(9月1日まで実測値、2日以降は平年値)